地域包括医療実習Ⅲ

科目責任者：千　種　雄　一（医学部特任教授）

Ⅰ．前文

地域医療を目指す学生も３年目を迎える。しかし“Devil in the Third Year”「３年次に悪魔がいる」(Hojat M, et al.)と報告されているように，医学的知識の取得に専念するあまりに本来見失ってはいけない人としての思いやりや共感的態度が失われてしまう学年だと言われることがある。これは，先輩から引き継がれる「隠れたカリキュラム」の影響もあるのかもしれない。良い医師を育成するためプロフェッショナリズム教育を更に充実する必要のある学年ということであるかもしれない。併せて，医学生はコミュニケーション能力をきちんと身につけ，患者のみならずチーム医療を担う全医療職スタッフとの対話による信頼関係の構築を目指すことが必要である。さらには，患者の疾患の診断を導き出す「聞く技術」の基本を学ぶことも重要である。

医師は生涯にわたって学習し続けなければならず，初心を忘れることなく実習に前向きに取り組むことを切に希望する。

三学年

Ⅱ．受入可能人数

地域枠学生・地域医療に興味を持つ学生の場合，人数は制限しない。

Ⅲ．担当教員

特任教授　千　種　雄　一　（医学部特任教授）
教　　授　田　所　　　望　（教育支援センター）
教　　授　志　水　太　郎　（総合診療医学）
准 教 授　稲　葉　未知世　（教育支援センター）
講　　師　橋　本　充　代　（地域医療教育センター）
助　　教　原　田　侑　典　（総合診療医学）
助　　教　森　永　康　平　（総合診療医学）
診療所・病院など地域の医療機関の院長・医師・職員

Ⅳ．学習内容

回数	月	日	曜日	時限	講　義　テ　ー　マ	担　当　者
1	5	22	金	5-6	オリエンテーション ロールプレイ講義（医療面接/聴く技術）	千　種　雄　一 田　所　　　望 稲　葉　未知世 原　田　侑　典 森　永　康　平
2		26	火	6-7	主訴から患者医師のロールプレイ ①腹痛（仮）	千　種　雄　一 田　所　　　望 稲　葉　未知世
3	6	9	火	6-7	主訴から患者医師のロールプレイ ②胸痛（仮）	千　種　雄　一 田　所　　　望 稲　葉　未知世
4		16	火	5-6	①と②のまとめを作成 発表会･総評	千　種　雄　一 田　所　　　望 稲　葉　未知世 原　田　侑　典 森　永　康　平
5		22	月	6-7	診療所・病院実習直前オリエンテーション バイタルサイン測定法	千　種　雄　一 田　所　　　望

回数	月	日	曜日	時限	講　義　テ　ー　マ	担　当　者
6	7-8				診療所実習	各診療所院長・医師・職員
7	9	2	水	7-8	実習報告会準備	担当教員
8		10	木	6-10	地域包括医療実習報告会・実習検討会	担当教員
9	11	28	土	1-7	地域包括医療セミナー	担当教員

Ⅴ．学修の到達目標

1）地域における診療所・病院の役割や多職種連携の大切さを学び，説明できる。
2）地域におけるプライマリ・ケア，疾病予防・健康増進活動を体験する。
3）予防活動を行っている地域住民たちとのコミュニケーションを図ることができる。
4）医師・患者役のロールプレイにより，医療面接をできるようにする。
5）主訴から疾患の鑑別診断をできるようにする。
6）患者とのコミュニケーションスキルを身につけられるようにする。
7）診療所・病院でよく見られる疾患について事前に学習し，説明できる。

Ⅵ．成績評価の方法・基準

実習の出席状況，実習態度，実習記録，各診療所・病院からの評価及び実習レポートの評価を参考とする。カリキュラム以外に地域医療に積極的に関心を持ち，自らすすんで自由選択プログラムの実習をした場合，自己報告することにより，評価が加点される。

Ⅶ．使用する教材・資料など

地域包括医療実習Ⅲテキスト
参考図書：「誰も教えてくれなかった診断学　患者の言葉から診断仮説をどう作るか」野口善令　福原俊一　医学書院
「聞く技術　答えは患者の中にある」山内豊明　監訳　日経BP社
その他，必要があれば，随時紹介する。

Ⅷ．質問への対応方法

千種雄一（PHS:7086, ychigusa@dokkyomed.ac.jp）が窓口になり対応する。地域医療教育センターへの来室は，平日9：00～17：00（office hours）に行い，質問内容と連絡先をノートに記入すること。

Ⅸ．求められる事前学習，事後学習＊（　）内は所要時間の目安

事前学習　授業の各回毎にテキストの該当部分を読んでくること。(30分)
事後学習　授業内容を振り返り，不明な点など調べたりしておくこと。(30分)

Ⅹ．コアカリ記号・番号

A－7－1）地域医療への貢献

Ⅺ．課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

レポートを添削し，返却します。

XII. 卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連＊

◎：最も重点を置くDP　　○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料，情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	◎
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎